



さかえ

令和2年
3月号
第436号

発行/栄村役場



～春の目覚め～ (撮影地：切欠原)

フキノトウが芽を出し、春の到来を告げています。フキノトウには、黄色い雄花、米粒のような白っぽい雌花（表紙写真）があり、ここ栄村では雌花をコメと呼び、「苦味が少なく美味しい」と言われています。心なしか、最盛期にはコメから採取され、雄花が売れ残る傾向があるようです。（撮影：若狭久男）

主な内容

- 第49回栄村スキー大会開催結果について……P 2
- 栄村コミュニティスクールについて……P 3
- ふるさと納税寄付金報告についてほか……P 4
- 保健だより……P 5
- 令和元年度栄中学校卒業生紹介……P 8
- 公民館報(第333号)……P10-17

ふるさと納税寄付金報告

コメ生産農家の支援及び農業振興を目的とした寄付金を今年度も募り、寄附金1万円につき栄村産特A米「心づかい」5kgをお礼の品として発送しています。寄附額につきましては次のとおりとなっています。

- ◇農業支援目的寄附額（1月末現在）
22,140,000円 464件
- ◇一般寄附額（1月末現在）
1,495,993円 68件

電源立地地域対策交付金の活用について

◇電源立地地域対策交付金とは
発電用施設の立地地域・周辺地域で行われる公共用施設の整備や、住民福祉の向上に資する事業に対して交付金を交付することで、発電用施設の設置に係る地元の理解促進等を図ることを目的として交付されています。
今年度栄村においては、交付金14,604千円を有効活用し保育所運営事業の充実を図っています。

栄村周辺発電用施設

発電施設の名称	施設の位置	認可出力
東京電力 信濃川発電所	飯山市 西大滝	17.70万kw
東京電力 中津川第一発電所	津南町 穴藤	12.60万kw
東京電力 切明発電所	切明	2.00万kw
東北電力 宮野原発電所	長瀬	0.25万kw
中部電力 志久見川第一発電所	長瀬	0.61万kw
中部電力 志久見川第二発電所	極野	0.66万Kw

栄村ホームページにおいて、これまでの交付金活用状況と事業評価報告書を公表していますのでご覧ください。

【問合せ先】

総務課 財政係
☎0269-87-3112

公民館講座「心の抱っこ」

心の抱っこは、「赤ちゃんの抱き方」ではなく、「子どもの心を抱きしめるための方法」です。年齢を問わず、またハンデいの

有無に関わらず、幅広く適用できます。子どもと大人が心を通わせながら共に成長していくための、考え方と手立てを明らかにするものとして、多くの親や子どもと関わる専門職の方々から、熱い支持を受けています。

- ◇期日 令和2年3月15日(日)
- ◇時間 受付午前10時から 講演会
- ◇場所 役場2階大会議室
- ◇講師 小林夕香先生
(日本抱っこ法協会)
- ◇参加料 無料
- ◇対象者 村内に在住又は在勤する方
(子育て中の方に限りません)

【問合せ先】

栄村公民館 ☎87-2100

栄村長選挙及び栄村議会議員補欠選挙日程の予定をお知らせします。

- 栄村長立候補予定者説明会
①日時 令和2年4月7日(火) 午前10時
- ②会場

栄村役場 議場兼大会議室

- ③対象者 立候補予定者若しくはその代理人3人以内
- ④内容 立候補の手続き、選挙運動の注意事項など
- ⑤その他 立候補の届出などに必要な書類をお渡しします。

- 栄村議会議員補欠選挙立候補予定者説明会
①日時 令和2年4月7日(火) 午後1時
- ②会場 栄村役場 議場兼大会議室

- ③対象者 立候補予定者若しくはその代理人3人以内
- ④内容 立候補の手続き、選挙運動の注意事項など
- ⑤その他 立候補の届出などに必要な書類をお渡しします。

- 選挙期日
告示 令和2年4月21日(火)
投票日 令和2年4月26日(日)

- 問い合わせ先 栄村選挙管理委員会
☎0269-87-3112

秋山協力隊通信

Vol.54

こんにちは、秋山地域おこし協力隊の石川です。近年でも稀な暖冬により例年とは違った雪景色に戸惑っています。ただ去年から居住宅を変更して初めての冬、改めて雪との闘いに四苦八苦しております。雪対策における皆様の知恵には日々勉強させていただいております。同時に自身の体力の無さと太り過ぎの身体を恥じ、早急な改善を実行していきたいと考えております。皆様も食べ過ぎ、飲み過ぎにはご注意ください。

去年の秋から開始した自家用有償運送「山タク」も冬季に入り運行数も大分落ち着いてきました。それだけ来訪者の利用が多かった証明になりますが、その分秋季の配車（運転手決め）には苦勞がありました。というのもも現行の運転手のほとんどが本業を持っており運転できる時間に限りがあるからです。常に運転できるかたがいればいいなとは思いますが、定年齢の引き上げ、運転免許の早期返納の推奨などの社会問題の後押しもありそういった人材はかなり希少で見つかりません。何事も担い

手不足は深刻化していることを実感する日々です。

話は変わりますが、現在地域住民が皆で集まれるイベント開催にいくつか携わっています。昔はそれこそ地域行事、特に小学校区に行事が集まれる機会も多かったですが段々と行われる地域が減ってしまっています。子供の活気が地域の活気とは正にと思うところで、だからこそ集まれる機会を大切にしていきたいと思えます。
(地域おこし協力隊 石川泰正)



2月上旬の秋山

苗場山麓ジオパーク通信

58



第5回フォトコンテストの審査会が2月8日(土)に行われました。

今回は応募総数168点。大勢の皆様に応募いただきました。

審査員は7名。審査員として、日本現代写真家協会所属の飯塚英春さん、戸谷英利さん、また京都の「AMS写真館」田代功次さんにもお越しいただき、和やかな雰囲気の中、厳正に行いました。

今年の受賞数は最優秀賞が1、季節部門4、暮らし・生活部門1、祭り・伝統部門1、植物・花部門1、学生部門1、そしてスポンサー部門17、特別賞3と全部で29もの賞を作ることができました。これもひとえに、地域内外の関係者のご協力のたまものです。本当にありがとうございます。

また、今年も十日町高校の写真部に所属する学生さんたちが数多く応募くださいました。フォトコンテストは今後も継続する予定なので、年齢問わず、多くの作品を募集します。小中学生の皆さんもぜひこれぞという写真を応募してください。

審査会の様子、審査結果は苗場山麓ジオパークHP (<https://naeba-geopark.jp/>) に詳しく掲載されています。ぜひご覧ください。(文責 越智)



審査会の様子



最優秀賞
「ちょうちん行列」
横倉のちょうちん行列です。

ジオパークガイド認定試験のお知らせ

【日時・内容】

3月14日(土) 10時～11時

ジオパークガイド認定試験 (初級)を行います。

【場所】 津南町 なじよもん

【持ち物】 筆記用具

【検定料】 無料

【申込み・詳しい問い合わせ】

苗場山麓ジオパーク推進室

☎0255-765-1600

村史編纂室から 35

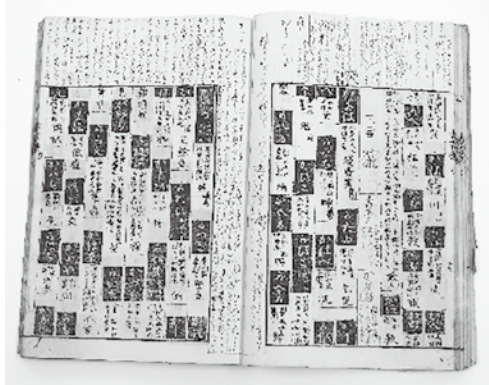
書名を「史」から「誌」へ

2月27日(木)第4回栄村史編纂委員会を開催しました。その中で書名を『長野県栄村誌歴史編』及び『長野県栄村誌自然編』と決定しました。新潟県内に『栄村誌』がすでに発刊されていること、「史」は自然編になじまないことから、「長野県」を置き、「史」を「誌」にするものです。

また、発刊冊数は歴史編・自然編ともに1200部とし、印刷製本の業務にあたる業者選定については、指名型プロポーザルを実施することも決定しました。

福原照一家史料紹介

寄贈いただいた小赤沢の福原照一家所蔵史料は、江戸時代後期から明治時代前期に江戸や京都で出版された書籍がほとんどです。内容は俳諧、和歌、物語など文学に関するもの、書画人や武将伝に関する歴史もの、論語や孟子などの哲学ものに大別できます。



江戸時代の用語辞典

たとえば書画人の書籍では、大和絵の土佐派は、昔からの遺風を今に伝え、狩野派は土佐派流と継承しつつも、探幽のときに一変して新たな画風を生み出したといえます。

こうした書籍を入手するには大金が、読みこなすには高い教養が必要ですが、若干の汚れや傷みがあります。どれもみな希少性の高い史料といえます。

【問合せ先】

栄村史編纂室

☎0269-87-3118

エゴマ講演会・料理教室を開催しました。

2月20日に日本エゴマ普及協会の服部圭子さん、服部充希さんをお招きして、エゴマと健康にかかわる講演会と料理教室を実施しました。「エゴマがこんなにも体に良いなんて知らなかった」「大変勉強になった」などのご意見を頂戴しました。この講演



会・料理教室は保健推進員より開催の要望があり企画しました。皆様の中でも食育に係る講演会・料理教室などの要望がありました。栄村役場民生課へお声掛けください。補助金申請や運営などのお手伝いをさせていただきます。

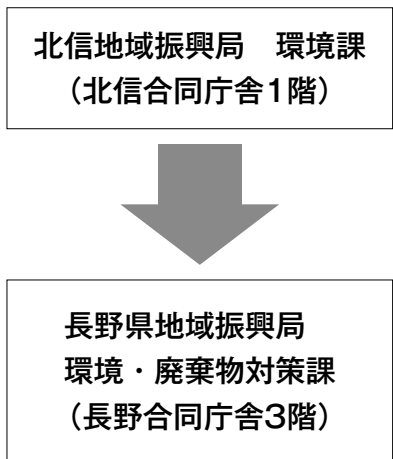
【問合せ先】

民生課健康支援係

☎0269-87-3020

長野県からのお知らせ 4月から県の廃棄物業務の窓口が変わります

県の組織改正に伴い、これまで北信地域振興局で行っていた廃棄物業務（監視指導、処理業・施設許可など）が、長野県地域振興局に集約されます。



「不法投棄!？」と思ったら、①長野県地域振興局環境・廃棄物対策課(☎026-234-9533)、②フリーダイヤル「不法投棄ホットライン」(☎0120-530-386)、又は③最寄りの市町村環境担当窓口までご連絡ください。

【問い合わせ】

北信地域振興局環境課

☎0269-23-0202

令和元年度 栄中学校卒業生紹介

今年の3月で栄中学校を卒業し、4月から自分たちの夢へ向かって旅立つ、栄中3年生の皆さん14名を紹介します。これから更なる活躍に期待します。



大塚 美穂 (大塚 美穂)



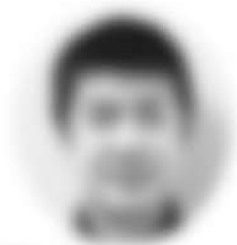
大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



大塚 美穂 (大塚 美穂)



育てた大豆で豆腐作り



北信保育園で、年中さんと年長さんが豆腐作りを体験しました。保育園の園庭には、毎年いろいろな野菜が保育士さんにより栽培されて給食に用いられています。今回はその畑の一部を使って用途の多い大豆の栽培に挑戦。昨年初夏の種まきから収穫、選別作業をみんなで行いました。



豆仕事が終わるまでは遊びはお預け。時には文句を言いながらもおいしい豆腐を目指してがんばりました。収穫した大豆は全部で4・8kg。その内の1・6kgで豆腐を作りました。

講師は月岡の樋口松子先生。ホワイトボードに書かれた手順に沿って、大豆と水を量ってミキサーに入れ、時計を見ながら粉碎。鍋に移して火にかけて、灰汁を取り、さらしでこすと、おからと豆乳が出来る上がります。にがりを入れてだんだん豆腐が出来上がっていくのを興味津々に見守りました。出来立ての優しい甘さのおぼろ豆腐を「おいしい、おいしい」とおかわりしながら味わいました。自分たちで種まきから携わった食べ物づくりは格別の体験だったようです。型に入れた四角いお店で売っているような豆腐も作って、後日給食でおいしくいただきました。先生方の話では今後、まだ残っている3kgの大豆で納豆や味噌が作れたらいいね、と



早くも今後の使いかたや、将来園の給食で使う味噌を自給するための構想など夢を語り合っていました。園児たちには、自分たちの口に入る食べものが、大切に育てられた畑からできていることを学べる良い取り組みであると思います。村民皆さんで見守っていきましょう。

公民館報

さかえ

第333号

令和2年3月1日発行

発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1

電話
0269-87-2100

編集
栄村公民館報編集委員会

こらっせ通信

● 栄村自然学校

今回は、早そば作りに挑戦。給食で食べて知ってはいても、あまり身近な食べ物ではない早そば。栄村食文化レシピ編集委員会発行の「ばあのごつつおうんめえ」の「し」には次のように記されています。

大根がそば粉にからまって「ハレ」の料理の手打ちそばに似て見える事と、手早く出来る



ことから「早そば」と呼び、主に秋山地区で普段の食に作った。2002年に長野県の選択無形文化財に指定された。

材料の大根は、前回の自然学校時にみんなで作った大根ツグラから出しました。本来ならたくさん雪に覆われ、スコップを使ってみんなで掘り起こすはずだったのですが、まさかこの時期ほとんど雪が無いなんて誰が想像したでしょう。雪の布団が氷点下の寒さを防いで凍らないはずだったので

不安いっぱい開けてみましたところ、たっぷりの杉の葉に守られたおかげかみずみずしくシャキ

シャキの大根が出てきました。梨のように甘い大根をつまみ食いしながら早そば作りに挑みました。

● 公民館講座 耳だんご作り

2月15日のお釈迦様の命日にお供える栄村の伝統食「耳だんご」。今回は村の健康支援係に協力をいただき、開催しました。

毎回人気のこの講座。森の桑原千恵さんを講師にお迎えし、0歳から80代の方まで賑やかに楽しく行われました。

昔、自家用の耳だんごは、クズの玄米を使い（昔このような低質な原料をアラモトと呼んだそうで



す。人に差し上げるものは白米を使ったといひます。

現在はご家庭によりさまざま工夫をした材料を使うと思いますが、今回は青豆に黒豆、青のり、桜エビ、えごまなどいろいろな材料を用意し、見た目もきれいな耳だんごを楽しんでみました。

思ったよりも簡単にできますので、作ったことがない！という方も来年はぜひみんなでワイワイと一緒に作ってみませんか？



こらっせ来館者数

・来館者（令和元年12月～令和2年1月末）……………200名
 ・オープン（平成28年8月）からの累計……………7,949名

一石を投じる

館報編集委員が村での暮らしを思ってみました

新年に思う「将来の秋山郷」

未来の秋山郷を考えると、何軒くらい家庭があつて、暮らしている人はどのくらいいるのでしょうか？自分自身もあと20年30年後には70歳80歳になって暮らしてられる自信がありません。まず公共の道路を冬の間除雪してくれる人がいるのか？もし除雪してもらえなくなると津南町や飯山方面に買い物に出られなくなってしまう。買い物に出られないとなると、食料の調達ができません。それに、急病の人が出ても道路が通れなければ病院にも行かれませんか。ドクターヘリを頼むしかなくなるでしょうか。救急車は最奥まで1時間以上かかります。

現在秋山では、一昨年の10月に路線バスが廃止になり、予約制のデマンドバスが利用されています。



編集委員 阿部美代子

す。しかし、かつての路線バスのように津南の街まで直行する便が早朝の1便しかなく、あとは津南町見玉で越後交通のバスに乗り換えになります。お年寄りが、両手いっぱいでの買い物帰りなどとても骨が折れます。

各集落や主な施設にはAEDを配置してもらっています。せっかくの備えですので、他人任せでなく、一人でも多くの人が使えるようになりたいと思います。将来に向けて何かをやりださないと、秋山郷で安心して暮らせることができなくなってしまう。秋山郷で暮らす私たちが、何かに気づいてできることから始めたいと思います。住民だけではできないこともあるので、行政の方にも協力していただいでやっていきたいと思っています。

栄村の暮らしは強い!!

1月の終わりに皇室専属医の寺澤早苗先生のお話を聴く機会がありました。

赤ひげ先生として活躍されている方で、85歳とは思えないほど肌つやつやではつらつとされています。

長野県は長寿日本一と言われていますが、健康長寿かと言えばそうではないと、辛口なことをおっしゃいました。

新型コロナウイルス関連のニュースが連日報道される中、マスクや消毒液が店頭から売り切れの事態になっているけど、免疫力を高めておけば恐れることはない話されました。

人間の身体の6割は水分できているのでこまめに水分補給をすることでウイルスから身体を守ることができそうです。

たくさんのお患者さんを診るお医者さまは一人の患者さんを診るごとに一口の水を飲むそうです。コップ一杯の水をゴクゴク飲むのではなく、一口ふくむのだそうです。一日に何度も含むことが大切だと話されました。

それから、リンパマッサージをすること。入浴の際、湯船につか

り右腕を伸ばして、親指から肩までを左手の親指で押していきます。痛みを感じるところが滞っているとこらだそうです。

水分を摂り、リンパマッサージをしてウイルスに負けない身体になるよう心掛けたいと思います。

新型コロナウイルスの影響で工場の稼働率が下がり、物流制限もあり自給率40%以下の日本の食料事情が心配だという声も聞かれます。

私たちの暮らす栄村では食料自給率80%〜90%（※）の暮らしをされている方も数多く、きれいな空気、おいしい水、数々の温泉etcウイルスに負けない身体づくりに欠かせないものがあふれています。この宝ものがいっぱい栄村で暮らしていけることに感謝するとともに、この暮らしを誇りに思っています。

この文が発行される3月には新型コロナウイルスも収束し、マスクも消毒液も店頭で並ぶようになることを願っています。

編集委員 齋藤和代

※栄村の自給率はイメージです

栄村で過ごす冬

栄村で過ごし始めて5度目の冬を迎えました。今年は、驚くほど雪が少なく日々の生活はしやすいと思いつつ毎年の事と違うと違和感を覚えるのを、少しずつ村での生活が自分の中で馴染んできたのかと感じています。また、これだけ積雪が少ないと今後にか影響が出てきたり、異常気象がどんどん多くなるのかと不安に思いました。

毎年、雪が本格的に降るようになると外に出かけづらくなるので家の中で過ごすことが多くなりますが、そんな中でも定期的に集落の公民館に集まり、編み物や集まった人たちが歌を歌ったり、映画の上映会を開いたりする機会が多いことに活気を感じます。中々、外にも出づらい中でこうして近所の人達や見知った仲で集まりおしゃべりをする機会があることがとても豊かな時間の作り方だなと思います。私自身でも、参加できるときは参加させていただき、集まった方たちと一緒にお茶を飲みながら他愛もない話をするのが楽しく、また、村のことや様々なことを知るきっかけにもなりとても有意義な時間を感じています。まだまだ栄村のことについても知

らないことが沢山ありますし、行ったことのない場所も沢山あります。これから編集委員として村内の色々な場所を取材させて頂く機会も多くなるかと思えます。自分の中で、知らないことを知れる楽しみや新しいことが増えていく楽しみを感じつつ、今年も、昨年に引き続きより一層頑張りますのでよろしくお願い致します。

編集委員 島田 遥

学芸員のいる栄村を夢見て

栄村に学芸員はいないという現状を皆さんはご存じですか。私はこれからの村にとって学芸員の力がさらに必要とされるのではないかと感じます。

学芸員とは博物館（歴史や民俗、芸術、自然科学等）で働くために必要な国家資格であり、主にモノ・資料の研究・収集・保全（保管）を高い専門性を以て行い、それらを展示に活用することで、そのものの価値を社会に伝え、発信すること、人とモノをつなぐ仕事です。

たとえ話で、目の前に石ころが落ちていたとします。学芸員は、石の資料価値を見極めることができますが、学芸員がいなければ、

それはただの石で見向きもされず、収集と保管はされません。情報の発信者、伝達者である学芸員がいなければ、価値は伝えられず、博物館はただの「箱物」になってしまい、その社会的な役割を果たせなくなってしまう。

大学時代の恩師が、対象に優劣の価値があるかないかではなく、価値を見いだすことのできる教養とその視点を持つことの大切さ、その面白さを教えてくださいました。

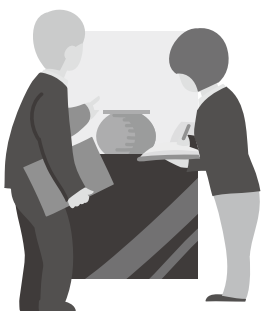
昨今の県内災害の被害に遭った資料等を修復する学芸員の姿が新聞やテレビで報道された様子をご覧になった方もあると思います。地域資料はその地域にしかないものです。どのような資料でも、過去から受け継ぐものは未来の人類からの預かり物、授かりものという見方もできます。その地域の人たちにとっては、縁ある大切な宝物になっていくはず。

私自身、栄村で育ち、10代のころは自然以外にはなにもないと友人に栄村の話をすることもありましたが、公民館や寺院での仕事を通じて、または公民館報の編集委員として取材をさせていただく中で、栄村に生きている人、生きてきた人の命の営みを無性に愛おし

く感じるのなぜでしょうか。村外の学芸員の方との交流を通じて、改めてここにある文化や風土を感じる機会にも恵まれました。学芸員の力が地域文化の再発見、地域の子供たちへの文化教育等、総合的に地域の活性化に将来的に繋がる存在であると感じています。

まだ栄村公民館・歴史文化館へいらしたくない方は是非こらっせに足をお運び下さい。栄村に縁ある人々にとって、ひとつの「イエ」のような存在であり、展示スペースもございます。先人たちの生きた証、営みのあつを感じてみてはいかがでしょうか。そして、自分の住まう地域の当たり前に存在している「宝」を一緒に見直してみませんか？

編集委員 梅津美希



『鮭獲りの権利を売る』(十)

あーそんなことがあったんか、ど先生の栄村昔語り、其の三十七



地域史料保全有志の会
鈴木 努 (通称: ど先生)
イラスト作成: 佐藤洋平

年明けからウィルス性肺炎の蔓延への懸念が取りざたされています。防災用語で有名な寺田寅彦の「正しくおそれる」という言葉、正確には「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正当にこわがることはなかなかおつかしいことだ」らしいです。これは浅間の噴火に寄せて、物理現象と感覚とを摺り合わせるのには難しい、という読み方ができるそうです。怖いものは怖いで仕方ありませんが、その恐怖心を他人に向けないことを心懸けたいものです。

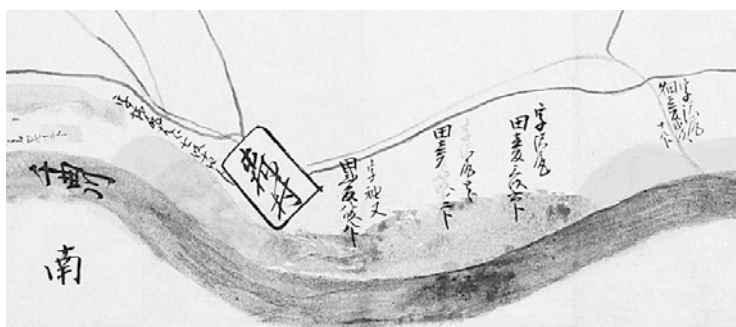
前回は川番の交番表などを通じ、森村でけっこうな数の人々が千曲川の鮭漁にかかわり、出漁の権利を融通したり売り買っていたこと、一日おきくらいに川番が立ち、それがおそらく鮭漁をする日だったのではないか、というお話しをしました。何度かなされた鮭運上の免除願いがあるように、不漁に悩まされる時期もあったでしょうが、駒川・中条川・岩下川・沢尻川（これは長とろ・巻・彦右衛門に細分化された形跡があります）の川棚で、多くの村人が近世を通じて鮭漁を続けていたようです。

この鮭漁が、近世末期になって大打撃を受けることになりました。弘化四年（一八四七）三月に善光寺地震が起き、栄村域でも三法山（今の天山水山付近の山嶺）で大崩落が起き、青倉村では民家が土石流に襲われました。また千曲川まで押し出した土石流がそれまで淵のようだった川岸を埋め、急流に変えてしまいました（栄村史水内編）。また森村の中条川沿いの田畑の多くが水をかぶったり土砂流入の被害を受けています。さ

らに、広瀬家に残る弘化四年四月の絵図には、千曲川沿いにあった字沢尻・袖又・沢尻とど・塩尻はば・うしおし・谷の田畑が、千曲川満水で同じように冠水や土砂災害を受けた様子が描かれています。この絵図は同年七月の裾花川決壊による大満水より前ですので、字沢尻などでは大満水でさらに大きな被害を受けたと考えられます。

このような状況にあつては、千曲川のほとりに設えられた鮭棚もほぼ流失したものと思われまます。具体的な記録はありませんが、絵図の示す被災箇所は森村の沿岸をほぼ覆い尽くしています。そして隣村の箕作村の事例ですが、同村が弘化四年一〇月に中野役所から受け取った年貢割付状には、鮭運上永二五〇文を巳年（弘化四年）から亥年まで五か年間免除する、と書かれています。そして五年を過ぎた嘉永五年（一八五二・子年）に再び五年間の鮭運上免除が言い渡され、安政五年（一八五八）にもまた五か年免除となりました。森村もこの時期は中野役所支配でしたから、同様に免除を受けたものと思われる。免除が長期にわたるのには、鮭漁が事業として回復できていないか、または鮭棚の再建が進んでいないことを示すのでしょうか。そういう状況が続けば、川番などのシステムも次第に崩れていったものと考えられます。

さて、結論に至って鮭漁の権利はなかなか難しい問題になりました。テーマの最初に紹介した証文は万延元年（一八六〇）のもので、この頃でも鮭漁の権利はそれなりの値段で売買されていました。これは鮭漁がシステムも含めて回復してきたためなのか、はたまた権利が実態と切り離され、資産として成立していたのか、判断が難しくなりました。なんとも面目ない次第ですが、鮭漁については新たな史料が見つかるまで、ここで一旦このテーマを閉じようと思います。



被災した字沢尻

図書室だより

どこへ行っても雪の少なさに驚きと心配の話をする毎日。どれだけ雪と深くかかわり、生活に必要なだったか思い知らされます。雪が降らなくて『やることがない!』ならぜひ読書を!

移動図書は3月いっぱいまで終わりますが、役場庁舎内の公民館図書室で、ご利用お待ちしております。また、返却していない本をお持ちの方は移動図書の時でも構いませんので返却をお願いします。

新着図書の紹介

背高泡立草 (古川真人) / デッドライン (千葉雅也) / 音に聞く (高尾長良) / 幼な子の聖戦 (木村友祐)
 熱源 (川越宗一) / 最高の任務 (乗代雄介) / 嘘と正典 (小川哲) / スワン (呉勝浩)
 夢見る帝国図書館 (中島京子) / 紙鑑定士の事件ファイル 模型の家の殺人 (歌田年)
 残された山靴 (佐瀬稔) / 平場の月 (浅倉かすみ)
 精鋭たちの挽歌―「運命のエベレスト」1983年10月8日 (長尾三郎) / ソロ SOLO (笹本稜平)
 心の傷を癒すということ (安克昌) / ケーキの切れない非行少年たち (宮口幸治)
 あちらにいる (井上荒野) / すみれ屋敷の罪人 (降田天) / とめどなく囁く (桐野夏生)
 こども六法 (山崎聡一郎)

図書室絵本コーナーリニューアル!

絵本コーナーの豊がきれいになり、本棚が増えました。今後、分かりやすい分類標記や司書が選ぶ子どもに出会ってほしい本を充実させるなどもっと使いやすく楽しめる絵本コーナーにしていきたいので、ぜひお子さんと一緒に足を運んで楽しい時間をお過ごしください。お待ちしております!



図書ボランティアさん大募集

栄村公民館図書室の土日開放はボランティアさんがしてくれます。土日どちらかの午前中3時間図書室にいていただきます。数か月に1度の当番でも構いません。成人している栄村民ならどなたでもできます。興味のある方は ☎87-3118 教育委員会事務局までお電話ください。

★栄村図書室開放時間★

平日 午前8時半～午後5時
 土・日 午前9時～正午

★栄村図書室3、4、5月休館日★

3月20日(金)～22日(日)、4月29日(水)
 5月2日(土)～6日(水)

★村内移動図書巡回中★

警報が出るような荒れた天候の場合、巡回を見合わせる場合がありますのでご了承願います。詳しい時間は、11月に配付した巡回表をご覧ください。栄村公民館図書室 (☎87-3118) までお問合せください。

なお、3月最終の週は曜日がいつもと違いますのでご注意ください。今月で今シーズンの移動図書は終わりになります。ご利用ありがとうございました。

地区 月	東部	西部 豊栄 水内	秋山
	3月	4日(水) 17日(火)	5日(木) 18日(水)

おおきくな〜れ

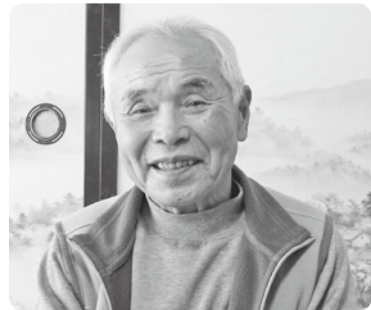


いつも2人の可愛い笑顔に癒されて元気もらっています！
 これからもこの笑顔を忘れずにのびのびとまっすぐに大きくなってください！2人がだーいすき♡!!
 樋口 光・ゆいさん宅（青倉）

大きくなったら…
 大工さんと釣りする人
 アンパンマンとミニオン
 大芽くん(6さい)
 心花ちゃん(3さい)

年輪

161



山本一郎さん
 (83歳) 野田沢

今になって考えれば最高の人生を送れたかな。農業一筋。自分のやりたいと思ったことはなんでもできる、そこが勤め人とは違うところだった。若い頃当時、公務員より農家の方が収入は多かった。同級生に公務員がいて、私は老後は負けたくないと思って、農業一筋で頑張っていた。中学のとき、二年から職業組と進学組に分かれた。私は職業科だったから、勉強は押しつけられず、よく読書していた。両親は養蚕農家だった。天地の畑を開墾して、さあこれからと思ったときに養蚕はだめになったから、切り替えて、キノコ栽培を始めた。農業は常にサイクルがあつて、家族経営で収益が多かった。毎日毎日キノコを背中にしょって出荷に農協まで行ったことがあつた。出稼ぎ対策で、いま考えれば惨めなんだけれど、みんな元気に張り切つてやつた。養蚕30年キノコ30年やつて震災後に廃業した。

農業は面白い、ほけている暇がない。今は10年前に出た本『ミツバチが告げる人類の滅亡』を移動図書館で借りて読んでいます。栄村でもミツバチが巣に帰つてこない現象が起きている。ネオニコチノイド系の農薬がミツバチの帰巢本能に影響を与えている。農業問題は自分で取り組んでみないと人には勧めることができない。問題が大きすぎるが、このまま続けたら大変だと考えている。
 目標は健康長寿、90歳までは生きること！健康であれば、いくつになつても、誰かの役に立てると思つている。これからも常に目標があればいいな。
 平成2年10月号から始まつた年輪ですが、令和2年3月をもって、一旦休止とし、また違った形で始めさせていただきます。30年間、取材のご協力ありがとうございました。

訂正とお詫び

公民館報332号「おおきくな〜れ」で掲載した宮尾明里さんですが、当時5歳のところ、誤って4歳と掲載しました。深くお詫び申し上げます。

今月の一句（栄村俳句会）

- 病室で冬日さし込み生を知り 山田政治
- 暖冬でいいのし今朝の合言葉 山田せき
- うれしきや孫よりもらうバレン・チョコ 福原勇一
- 達磨の目竹の弾けるどんど焼き 斉藤はる子
- 逆ろうて流されもして鴨の群れ 関谷貞子
- 南極の氷も崩れ雪降らぬ冬 馬場澤子
- 雲間より日の射してくる年賀かな 柳 静江
- 鳥の声切り裂き滑走春スキー 大塚幸一
- 獣らの跡でんと山眠る 杉浦恵子

武蔵村山市で栄村講座開催

1月11日に武蔵村山市で栄村のことに
ついて話してきました。武蔵村山市の歴
史民俗資料館で行われていた「栄村の祭
り」の展示に伴い、栄村の歴史を紹介す
る「栄村講座」が行われ、その中で8年
前の地震と去年の台風19号による災害に
ついて話してきました。

武蔵村山市とは姉妹都市提携をして今
年でちょうど30年を迎えます、遠い場所
に見えて車で行くと意外に近い場所でも
あります、歴史民俗資料館の皆さんは栄
村に来た事が有る皆さんです。毎年、栄
村についての展示を行ってくださってい
ますので、歴史民俗資料館を足掛かりに
ぜひ武蔵村山市を訪れてください。

こらつせ友の会会長 広瀬幸利



公民館講座

心の抱っこ

日時

3月15日(日) 午前10時から

場所

栄村役場2F 議場兼大会議室
入場無料

※前回の公民館報から場所が変わりま
したのでご承知おきください。

「心の抱っこ」とは

心の抱っこは「気持ちを抱きしめ、
よりよい人間関係を築いていくため
の方法」です。「赤ちゃんの抱っこ
の方法」ではありません。単なる理
屈ではなく、30年以上にわたる具体
的な実践の中で検証されてきたノウ
ハウなので、親がより良い子育てを
していくためにも、子育て支援者が
親子をサポートしていくためにも実
際に活かしていくことができます。

対象年齢は、赤ちゃん・幼児はも
ちろん、小学生以上、あらゆる年齢
のお子さんに応用できます。健常児
だけではなく、障がいを持ったお子
さんや、成人障がい者に対しても有
効です。

(日本抱っこ協会HPから抜粋)

編集後記

今年はずっと雪がない冬ですね。

初めて栄村を訪れてから、10年ばか
りの月日が流れ、公民館報に関わらせ
てもらって1年が過ぎますが、その中
で村の人からいろいろな話を聞かせて
いただくにつれ、栄村は良くも悪くも
雪が原動力なのだ、と改めて感じる
日々です。

栄村には昔、「江戸行き」という風
習があったといわれています。秋の10月から
11月(とても忙しい時期ですよ)に
かけて、少年たちが家族の許しもなく
こっそりと東京に冬働きに出かけて行
ったそうです。もしかしら、江戸行
きという名目で都会に出た思い出があ
る方もいらっしゃるかもしれませんが、
東京へのがれたいということもありま
すが、冬という時期を考えると、やっ
ぱり雪が嫌だったのかな、などと想像
してしまいます。

雪の多い冬を乗り越えるために、昔
生産の開発をしたり、効率よく除雪す
るために重機を改造してみたり、てわ
るさで仕事を作ってきた方々もいらつ
しやると思います。昔、暮坪では八バ
キ(脚絆のこと)の生産が盛んで「ク
レソバ八バキ」と言って一種のブラン
ドとして見られていたようですし、秋
山では木工製品が盛んになり、今でも
伝統工芸品として続いています。

雪が降る前に、シャカリキになって
秋の収穫や雪囲い冬支度をしますし、
雪が降れば、みんなわくわくしたよう
に外に出て雪掘りをしています。わく

わくするのは最初だけかもしれませんが(笑)。そついつと雪に関連するい
ろいろな仕事や行動が、栄村の生活・
文化・考え方として今も根付いていま
す。

今年のように雪がないと、雪に対す
る張り合いもありませんし、スキー場
や除雪の仕事も困りますね。アウトド
アのイベントや雪まつりも集客が見込
めなくなってきました。

雪が降れば、面倒で、大変で、いや
になるのかと思いますが雪がないと、
一時期は暇でよいけど、後々もつと大
変になってくる。良くも悪くも私たち
は「雪発電・雪充電」をして生きてい
るのかな。とも思います。

今年の暖冬、地球温暖化のせいだと
か言われていますが、(少し前に「そ
れはどつちあげだー」なんて言った大
統領もいたりしたようですが)、本や
テレビなどを見て調べてみると、産業
革命のあとのCO₂、二酸化炭素の増
加量はそれまでにないくらいで、地球
に何かしらの影響を及ぼしているのだ
はないかな、と考えてしまいます。

昔、村は「自立」を掲げ、これまで
皆で取り組んできましたが、時代も令
和に代わりましたし、私たちの原動力
の雪が消えることのないよう「深雪親
切」の村」を掲げ、家族にも、他人にも、
自然にも、そして雪にも優しい生活を
送る、日本一環境問題に取り組む村と
してこれから進んでいっても良いのか
もしれません。私も一石を投じる、と
編集会議で言われましたので、少し投
じた編集後記とさせていただきます。

(勇)

